

問 22 日本の社会に「被差別部落」と呼ばれていた同和地区、あるいは「同和问题（部落差別）」といわれている問題があることを知っていますか。（○は1つだけ）

（上段：回答者数、下段：回答率）

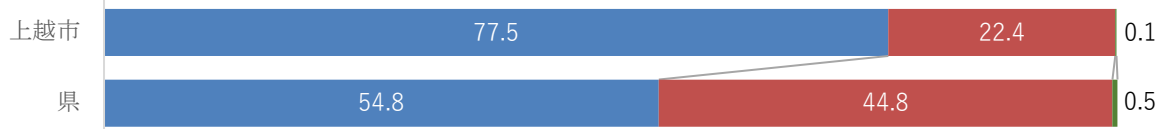
選択肢	全体	男女比較		年代比較						
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1 知っている	643 77.5%	285 75.0%	358 79.6%	14 82.4%	41 77.4%	63 76.8%	98 81.0%	83 72.2%	138 76.2%	206 78.9%
2 知らない	186 22.4%	94 24.7%	92 20.4%	3 17.6%	12 22.6%	19 23.2%	23 19.0%	32 27.8%	43 23.8%	54 20.7%
無回答	1 0.1%	1 0.3%	0	0	0	0	0	0	0	1 0.4%
回答者計	830 100.0%	380 100.0%	450 100.0%	17 100.0%	53 100.0%	82 100.0%	121 100.0%	115 100.0%	181 100.0%	261 100.0%

■知っている ■知らない ■無回答

●前回調査との比較



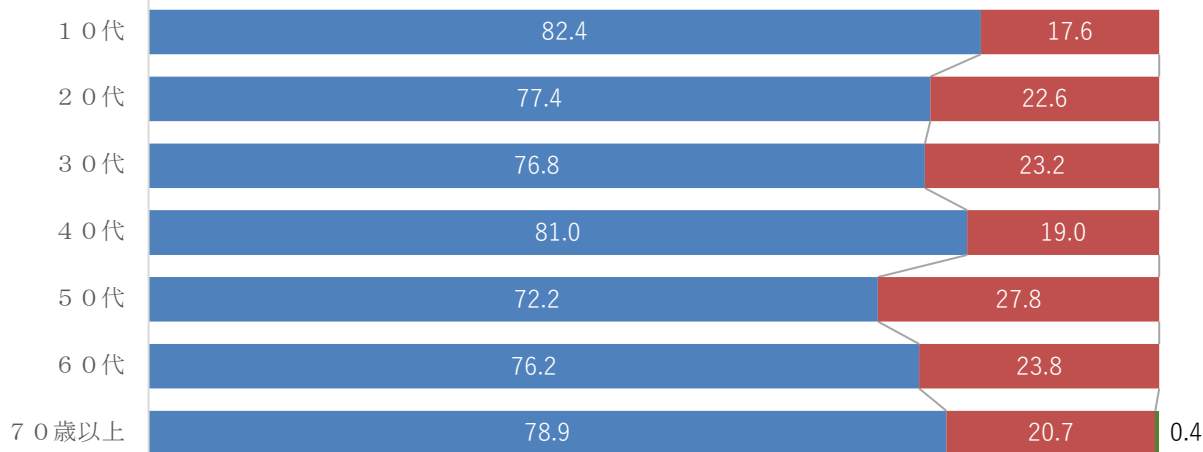
●県調査との比較



●男女比較



●年代比較



【結果の分析】

- 「知っている」が77.5%と前回の66.8%から10.7ポイント増加した。全ての年代で70%を超えるとともに、県の54.8%を22.7ポイント上回ったことから、市民の認知度が総じて高まっているものと考えられる。
- 年代毎の差異は少ないものの、各年代で2割前後が「知らない」と回答していることから、全ての年代を対象に繰り返し市民啓発に取り組む必要がある。

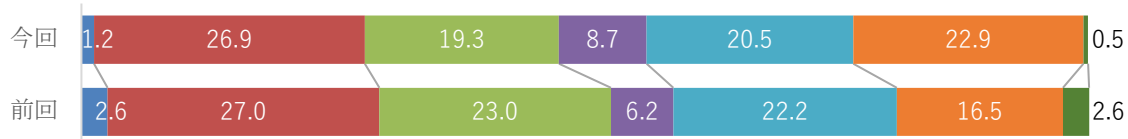
問 23 被差別部落や同和問題について、初めて知ったのはいつ頃ですか。(〇は1つだけ)

(上段：回答者数、下段：回答率)

選択肢	全体	男女比較		年代比較						
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1 小学校入学以前	8 1.2%	5 1.8%	3 0.8%	0	0	1 1.6%	1 1.0%	3 3.6%	0	3 1.5%
2 小学生の頃	173 26.9%	71 24.9%	102 28.5%	11 78.6%	23 56.1%	30 47.6%	38 38.8%	18 21.7%	18 13.0%	35 17.0%
3 中学生の頃	124 19.3%	60 21.1%	64 17.9%	1 7.1%	7 17.1%	13 20.6%	15 15.3%	16 19.3%	27 19.6%	45 21.8%
4 高校生の頃	56 8.7%	30 10.5%	26 7.3%	2 14.3%	5 12.2%	1 1.6%	4 4.1%	7 8.4%	20 14.5%	17 8.3%
5 19歳以降	132 20.5%	57 20.0%	75 20.9%	0	2 4.9%	8 12.7%	19 19.4%	27 32.5%	37 26.8%	39 18.9%
6 はっきりと覚えていない	147 22.9%	62 21.8%	85 23.7%	0	4 9.8%	10 15.9%	21 21.4%	12 14.5%	34 24.6%	66 32.0%
無回答	3 0.5%	0	3 0.8%	0	0	0	0	0	2 1.4%	1 0.5%
回答者計	643 100.0%	285 100.1%	358 99.9%	14 100.0%	41 100.1%	63 100.0%	98 100.0%	83 100.0%	138 99.9%	206 100.0%

■小学校入学以前 ■小学生の頃 ■中学生の頃 ■高校生の頃 ■19歳以降 ■はっきりと覚えていない ■無回答

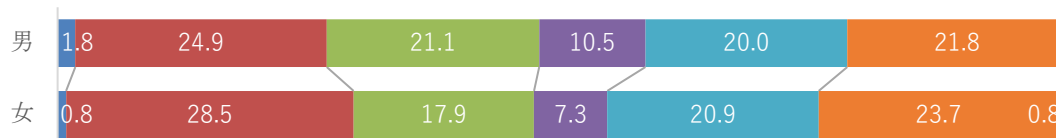
●前回調査との比較



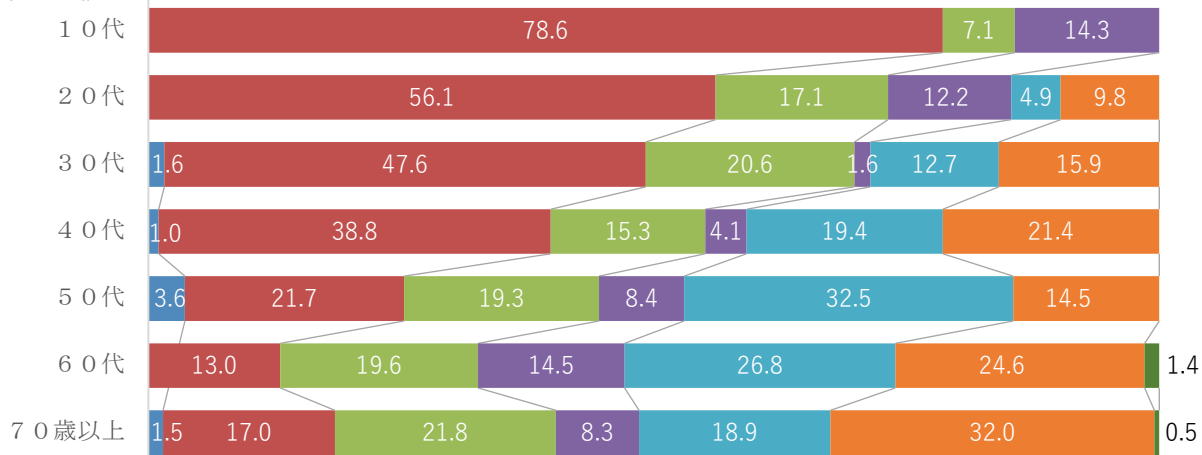
●県調査との比較



●男女比較



●年代比較



#### 【結果の分析】

- 選択肢 1～4 の小学校入学以前から高校生までに知った人は 56.1% と前回の 58.8% から 2.7 ポイント下回るとともに、県の 53.1% を 3.0 ポイント上回った。
- 特に 20 代が 85.4%、30 代が 71.4% と高いものの、40 代 59.2%、50 代 53.0%、60 代 47.1%、70 歳以上は 48.6% と年代が上がるに従って低い傾向にあることから、学校における同和教育の成果が見受けられる。

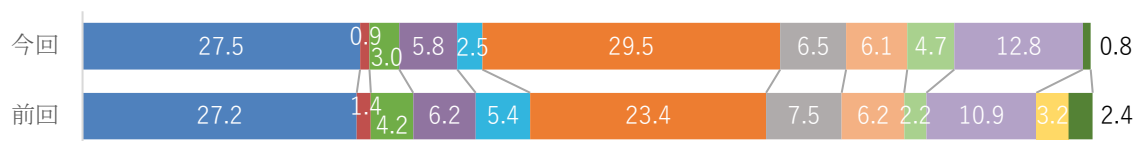
問 24 被差別部落や同和問題について、初めて知ったきっかけは何ですか。(〇は1つだけ)

(上段：回答者数、下段：回答率)

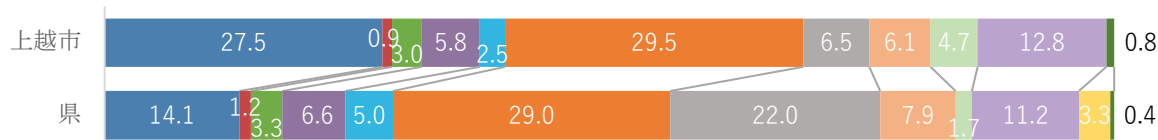
選択肢	全体	男女比較		年代比較							
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	
1 家族(祖父母、父母、兄弟姉妹等)から聞いた	177 27.5%	75 26.3%	102 28.5%	0	4 9.8%	8 12.7%	19 19.4%	23 27.7%	43 31.2%	80 38.8%	
2 親戚から聞いた	6 0.9%	1 0.4%	5 1.4%	0	0	0	0	1 1.2%	2 1.4%	3 1.5%	
3 近所の人から聞いた	19 3.0%	11 3.9%	8 2.2%	0	0	0	0	2 2.4%	5 3.6%	12 5.8%	
4 職場の人から聞いた	37 5.8%	20 7.0%	17 4.7%	0	1 2.4%	3 4.8%	2 2.0%	7 8.4%	13 9.4%	11 5.3%	
5 学校の友達から聞いた	16 2.5%	9 3.2%	7 2.0%	0	0	1 1.6%	1 1.0%	0	5 3.6%	9 4.4%	
6 学校の授業で教わった	190 29.5%	78 27.4%	112 31.3%	14 100.0%	32 78.0%	41 65.1%	49 50.0%	22 26.5%	21 15.2%	11 5.3%	
7 テレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどで知った	42 6.5%	23 8.1%	19 5.3%	0	1 2.4%	3 4.8%	6 6.1%	5 6.0%	6 4.3%	21 10.2%	
8 同和問題の集会や研修会で知った	39 6.1%	17 6.0%	22 6.1%	0	1 2.4%	3 4.8%	6 6.1%	6 7.2%	10 7.2%	13 6.3%	
9 県や市町村の広報紙などで知った	30 4.7%	18 6.3%	12 3.4%	0	0	1 1.6%	3 3.1%	5 6.0%	10 7.2%	11 5.3%	
10 はっきりと覚えていない	82 12.8%	31 10.9%	51 14.2%	0	2 4.9%	3 4.8%	12 12.2%	10 12.0%	21 15.2%	34 16.5%	
無回答	5 0.8%	2 0.7%	3 0.8%	0	0	0	0	2 2.4%	2 1.4%	1 0.5%	
回答者計	643 100.1%	285 100.2%	358 99.9%	14 100.0%	41 99.9%	63 100.2%	98 99.9%	83 99.8%	138 99.7%	206 99.9%	

- 家族(祖父母、父母、兄弟姉妹等)から聞いた
- 親戚から聞いた
- 近所の人から聞いた
- 職場の人から聞いた
- 学校の友達から聞いた
- 学校の授業で教わった
- テレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどで知った
- 同和問題の集会や研修会で知った
- 県や市町村の広報紙などで知った
- はっきりと覚えていない
- その他
- 無回答

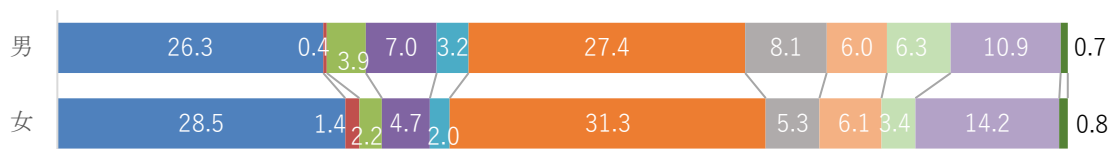
● 前回調査との比較



● 県調査との比較

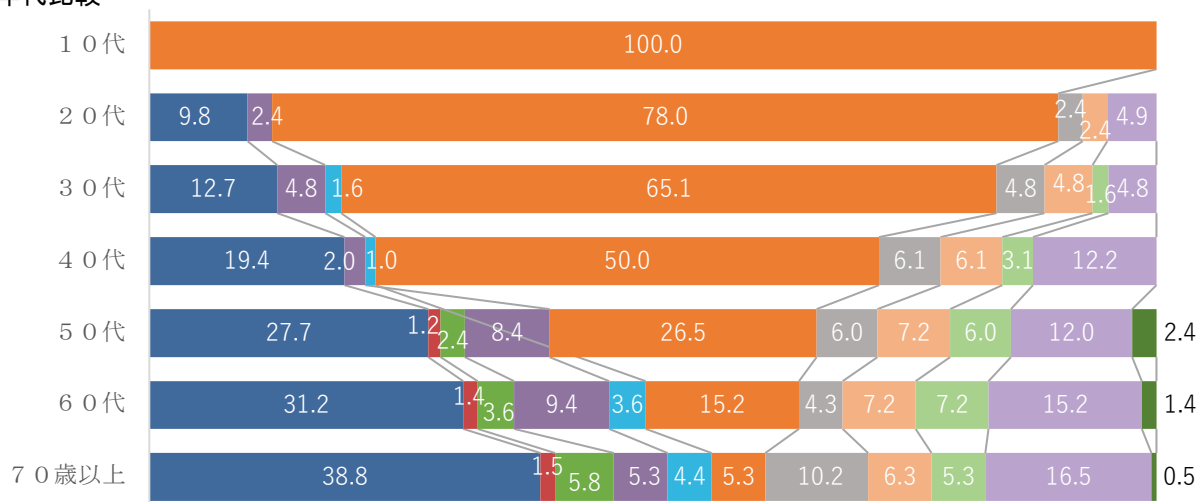


● 男女比較



- 家族（祖父母、父母、兄弟姉妹等）から聞いた
- 近所の人から聞いた
- 学校の友達から聞いた
- テレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどで知った
- 県や市町村の広報紙などで知った
- その他
- 親戚から聞いた
- 職場の人から聞いた
- 学校の授業で教わった
- 同和問題の集会や研修会で知った
- はっきりと覚えていない
- 無回答

●年代比較



【結果の分析】

- 「学校の授業で教わった」が29.5%と前回の23.4%から6.1ポイント増加した。20代で78.0%、30代で65.1%と高い水準にあり、本市における学校同和教育の成果が表れている。
- 年代が上がるに従って「家族から聞いた」の比率が高く、70歳以上は38.8%を占めた。
- 県との比較では、「学校の授業で教わった」は、県の29.0%と同水準であったが、「家族から聞いた」は本市の27.5%に対し、県は14.1%に留まる一方で、「テレビ、ラジオ新聞、インターネットで知った」は、本市では6.5%、県では22.0%であったことから、家族の対話の中で同和問題が伝えられていることも本市の特徴と考える。
- なお、家族・友人からの伝承やテレビ・インターネットからの情報等については、誤った内容が含まれている可能性もあることから、引き続き学校教育や行政機関による正しい知識の普及啓発に取り組む必要がある。

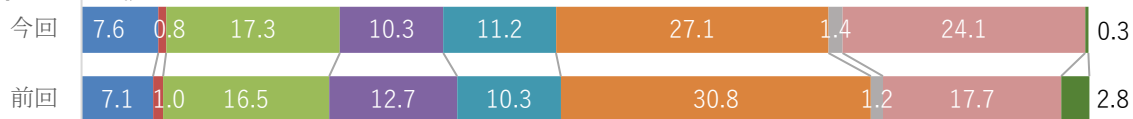
問 25 被差別部落の起源について、どのように受けとめていますか。(〇は1つだけ)

(上段：回答者数、下段：回答率)

選択肢	全体	男女比較		年代比較						
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1 人種の違いからつくられた	49 7.6%	25 8.8%	24 6.7%	2 14.3%	1 2.4%	5 7.9%	9 9.2%	3 3.6%	14 10.1%	15 7.3%
2 宗教の違いからつくられた	5 0.8%	3 1.1%	2 0.6%	0	1 2.4%	0	0	0	2 1.4%	2 1.0%
3 職業の違いからつくられた	111 17.3%	47 16.5%	64 17.9%	0	4 9.8%	9 14.3%	11 11.2%	6 7.2%	28 20.3%	53 25.7%
4 生活が貧しいことによりつくられた	66 10.3%	25 8.8%	41 11.5%	2 14.3%	2 4.9%	8 12.7%	11 11.2%	13 15.7%	18 13.0%	12 5.8%
5 けがれ、きよめ思想などにより中世の頃からつくられ始めた	72 11.2%	37 13.0%	35 9.8%	4 28.6%	11 26.8%	5 7.9%	9 9.2%	13 15.7%	14 10.1%	16 7.8%
6 江戸時代の身分制度によりつくられた	174 27.1%	87 30.5%	87 24.3%	6 42.9%	10 24.4%	16 25.4%	35 35.7%	20 24.1%	31 22.5%	56 27.2%
7 その他	9 1.4%	4 1.4%	5 1.4%	0	0	2 3.2%	3 3.1%	3 3.6%	0	1 0.5%
8 分からない	155 24.1%	56 19.6%	99 27.7%	0	12 29.3%	18 28.6%	20 20.4%	25 30.1%	31 22.5%	49 23.8%
無回答	2 0.3%	1 0.4%	1 0.3%	0	0	0	0	0	0	2 1.0%
回答者計	643 100.1%	285 100.1%	358 100.2%	14 100.1%	41 100.0%	63 100.0%	98 100.0%	83 100.0%	138 99.9%	206 100.1%

- 人種の違いからつくられた
- 宗教の違いからつくられた
- 職業の違いからつくられた
- 生活が貧しいことによりつくられた
- けがれ、きよめ思想などにより中世の頃からつくられ始めた
- 江戸時代の身分制度によりつくられた
- その他
- 分からない
- 無回答

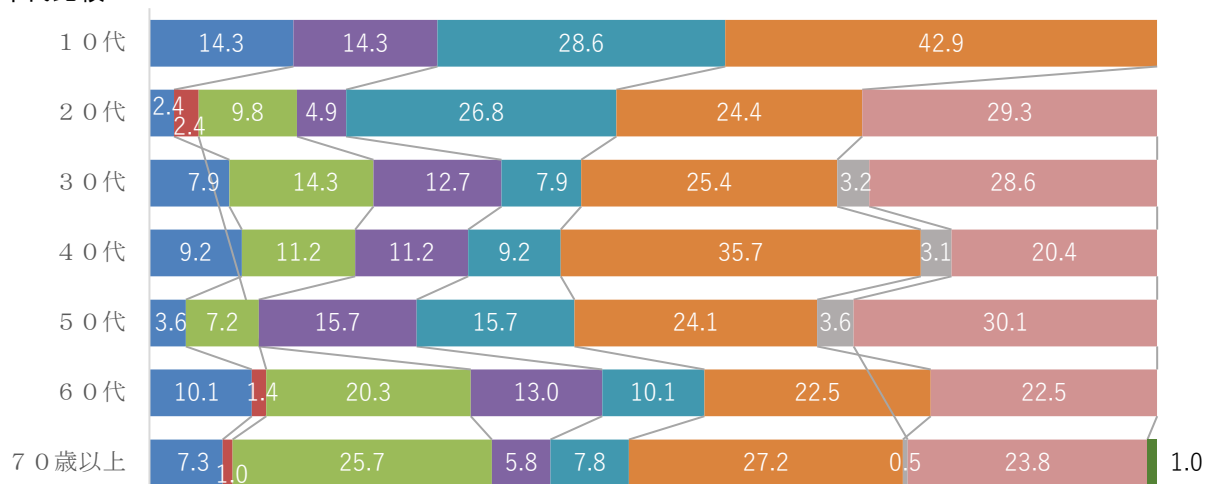
● 前回調査との比較



● 男女比較



● 年代比較



### ●選択肢「その他」の内容

- ・差別する意味が分からない
- ・住んでいる地域
- ・人間が集団で生活する制度ができた頃
- ・宗教、職業、貧富の差など
- ・人より優位に立ちたい人間が勝手に作った制度
- ・国籍等の差別による優位性願望

### 【結果の分析】

- 近世政治起源説に基づいた「江戸時代の身分制度」が27.1%で最も高く、前回の30.8%から3.7ポイント減少したが、各年代とも、かつて学校で学んだ身分制度に対する認識が色濃く残っている
- また、「人種・宗教・職業・貧困を起源」とする回答も合算すると36.0%と、前回の37.3%から微減となっているものの、依然として高い比率であることから、部落差別の起源について、誤った認識が払拭できていない現状が読み取れる。
- 今日、部落差別の起源として有力な説となっている中世の「けがれ・きよめ思想」は11.2%と前回の10.3%から微増であった。また、「分からない」が前回から6.4ポイント増加したことから、部落差別の起源について正しい認識が持てる啓発、教育を一層進める必要がある。

※近年の部落史の調査研究等により、部落差別の起源や実像が明らかにされてきている。小・中学生の教科書からは「士農工商」の表記が消え、新たに日本の文化、医療などの発展や当時の人々の安全・安心な生活に貢献するなど、被差別部落の人々が果たしてきた社会的な役割がクローズアップされてきている。

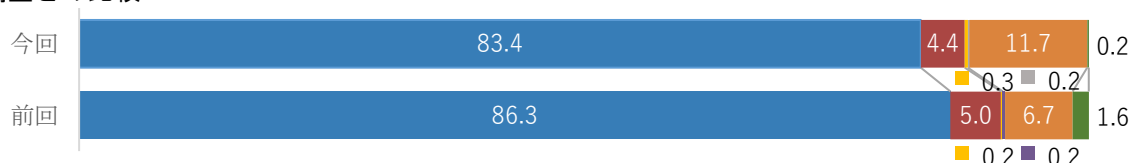
問 26 日ごろ親しく付き合っている隣近所の人が被差別部落の出身であることが分かった場合、どうしますか。(○は1つだけ)

(上段：回答者数、下段：回答率)

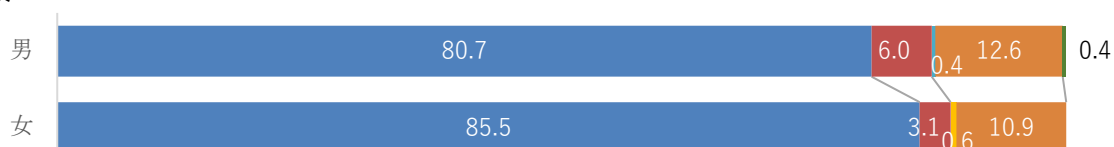
選択肢	全体	男女比較		年代比較						
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1 これまでと同じように親しく付き合う	536 83.4%	230 80.7%	306 85.5%	12 85.7%	35 85.4%	51 81.0%	87 88.8%	71 85.5%	113 81.9%	167 81.1%
2 表面的には付き合うが、できるだけ付き合いは避けていく	28 4.4%	17 6.0%	11 3.1%	0	1 2.4%	3 4.8%	0	2 2.4%	7 5.1%	15 7.3%
3 付き合いはやめる	2 0.3%	0	2 0.6%	0	0	0	0	0	0	2 1.0%
4 なんとかして、近所から出ていってもらいように仕向ける	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 自分のほうから住居を変える	1 0.2%	1 0.4%	0	0	0	0	0	0	0	1 0.5%
6 分からない	75 11.7%	36 12.6%	39 10.9%	2 14.3%	5 12.2%	9 14.3%	10 10.2%	10 12.0%	18 13.0%	21 10.2%
無回答	1 0.2%	1 0.4%	0	0	0	0	1 1.0%	0	0	0
回答者計	643 100.2%	285 100.1%	358 100.1%	14 100.0%	41 100.0%	63 100.1%	98 100.0%	83 99.9%	138 100.0%	206 100.1%

- これまでと同じように親しく付き合う
- 表面的には付き合うが、できるだけ付き合いは避けていく
- 付き合いはやめる
- なんとかして、近所から出ていってもらいように仕向ける
- 自分のほうから住居を変える
- 分からない
- 無回答

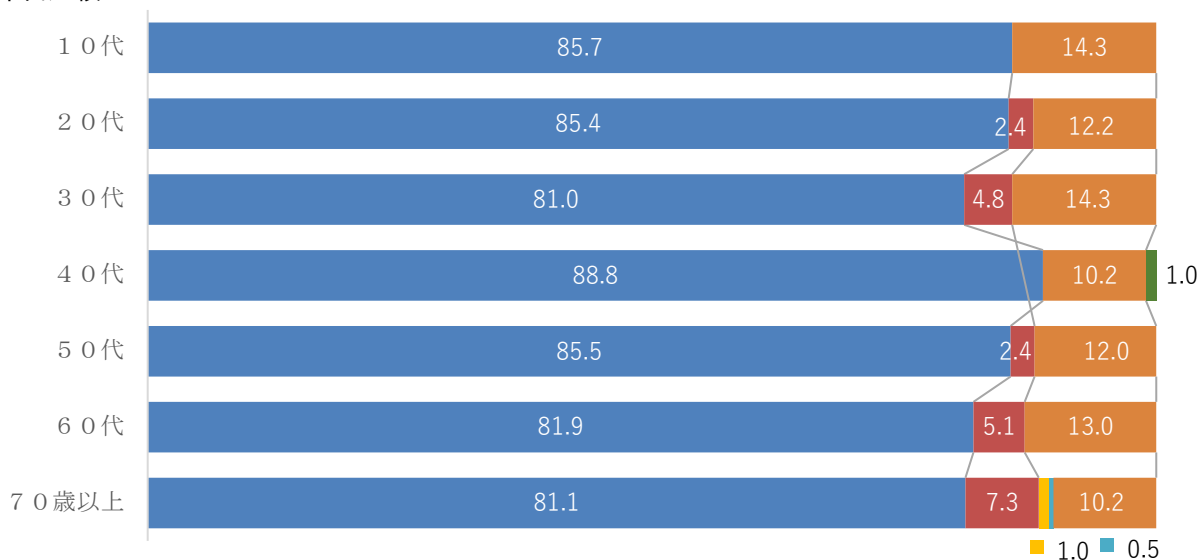
● 前回調査との比較



● 男女比較



● 年代比較





#### 【結果の分析】

- 「これまでと同じように親しく付き合う」が 83.4%と前回の 86.3%から 2.9 ポイント減少した。性別では女性が 85.5%と男性の 80.7%を 4.8 ポイント上回っており、年代別でも全ての年代で 80%以上となっている。
- 一方で、「表面的には付き合うが、できるだけ付き合いは避けていく」が、60代では 5.1%、70歳以上では 7.3%あり、高年層ほど差別心の根深さがうかがえる。

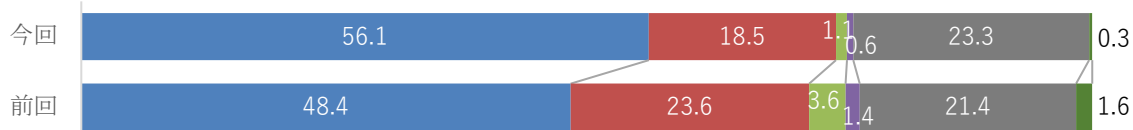
問 27 あなたの子どもの結婚しようとする相手が、被差別部落の人であると分かった場合、どうしますか。  
(○は1つだけ)

(上段：回答者数、下段：回答率)

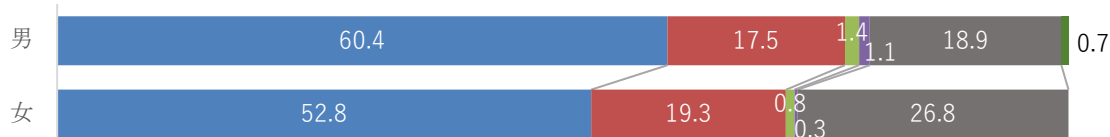
選択肢	全体	男女比較		年代比較						
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1 何も問題はなく、結婚を認める	361 56.1%	172 60.4%	189 52.8%	13 92.9%	27 65.9%	43 68.3%	61 62.2%	55 66.3%	70 50.7%	92 44.7%
2 親としては反対するが、子どもの意思を尊重する	119 18.5%	50 17.5%	69 19.3%	0	3 7.3%	2 3.2%	16 16.3%	7 8.4%	30 21.7%	61 29.6%
3 家族や親戚の反対があれば、結婚を認めない	7 1.1%	4 1.4%	3 0.8%	0	0	1 1.6%	1 1.0%	0	1 0.7%	4 1.9%
4 絶対に結婚を認めない	4 0.6%	3 1.1%	1 0.3%	0	0	1 1.6%	1 1.0%	0	0	2 1.0%
5 分からない	150 23.3%	54 18.9%	96 26.8%	1 7.1%	11 26.8%	16 25.4%	18 18.4%	21 25.3%	37 26.8%	46 22.3%
無回答	2 0.3%	2 0.7%	0	0	0	0	1 1.0%	0	0	1 0.5%
回答者計	643 99.9%	285 100.0%	358 100.0%	14 100.0%	41 100.0%	63 100.1%	98 99.9%	83 100.0%	138 99.9%	206 100.0%

- 何も問題はなく、結婚を認める
- 親としては反対するが、子どもの意思を尊重する
- 家族や親戚の反対があれば、結婚を認めない
- 絶対に結婚を認めない
- 分からない
- 無回答

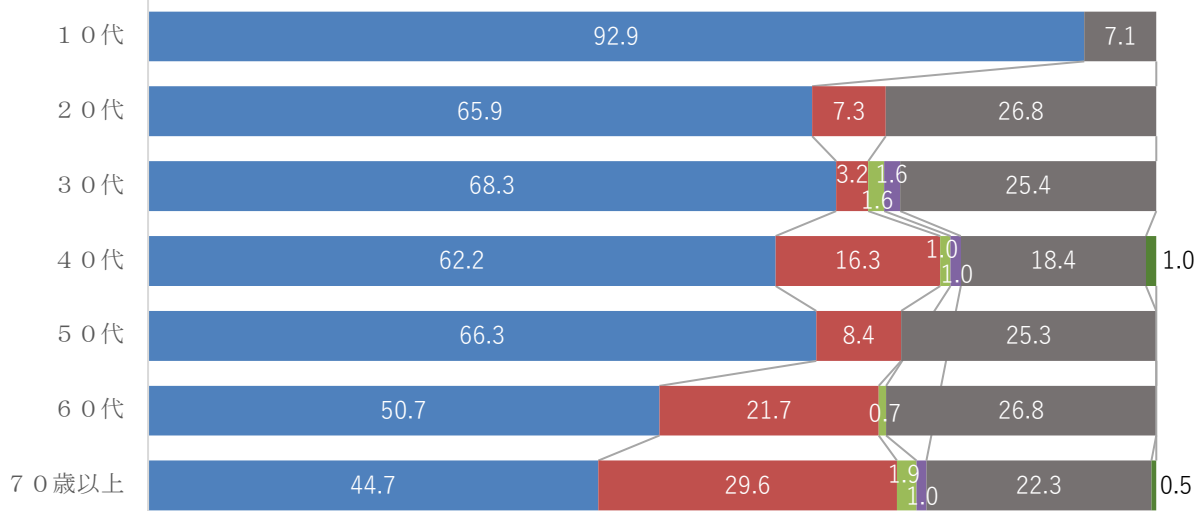
●前回調査との比較



●男女比較



●年代比較



### 【結果の分析】

- 「何も問題はなく、結婚を認める」が 56.1%と前回の 48.4%から 7.7 ポイント増加した。性別では男性の 60.4%に対し女性が 52.8%と 7.6 ポイントの差異がある。
- 結婚に対しては、「分からない」も含めると、依然として半数程度の市民が被差別部落への差別的な心情を持っていることがうかがえる。
- 前問で「これまでと同じように親しく付き合う」は 83.4%であるが、本問では「何も問題はなく、結婚を認める」が 56.1%となっていて、我が子の結婚という局面になると差別意識が顕在化することがうかがえる。特に年代が上がるに従って結婚という局面で差別意識が高くなっている。

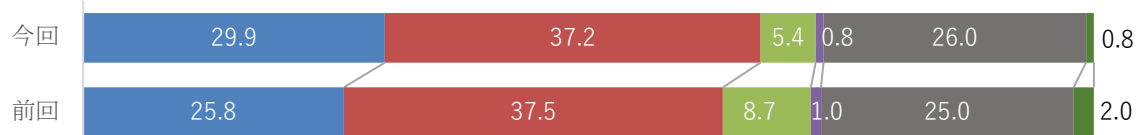
問 28 あなたが被差別部落の人と結婚しようとしたとき、親や親戚から強い反対を受けた場合、どうしますか。(○は1つだけ)

(上段：回答者数、下段：回答率)

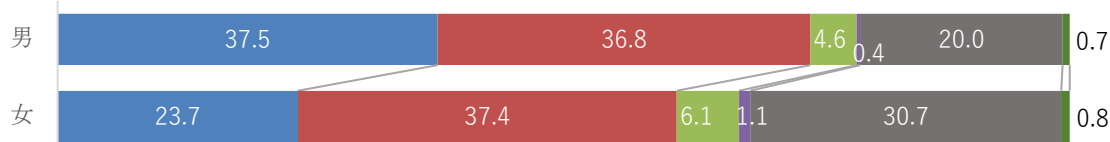
選択肢	全体	男女比較		年代比較						
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1 自分の意思を貫いて結婚する	192 29.9%	107 37.5%	85 23.7%	9 64.3%	13 31.7%	12 19.0%	34 34.7%	30 36.1%	36 26.1%	58 28.2%
2 親の説得に全力を傾けた後に、自分の意思を貫いて結婚する	239 37.2%	105 36.8%	134 37.4%	3 21.4%	17 41.5%	35 55.6%	39 39.8%	29 34.9%	45 32.6%	71 34.5%
3 家族や親戚の反対があれば、結婚しない	35 5.4%	13 4.6%	22 6.1%	1 7.1%	1 2.4%	1 1.6%	6 6.1%	2 2.4%	9 6.5%	15 7.3%
4 絶対に結婚しない	5 0.8%	1 0.4%	4 1.1%	0	0	1 1.6%	1 1.0%	1 1.2%	0	2 1.0%
5 分からない	167 26.0%	57 20.0%	110 30.7%	1 7.1%	10 24.4%	13 20.6%	18 18.4%	21 25.3%	46 33.3%	58 28.2%
無回答	5 0.8%	2 0.7%	3 0.8%	0	0	1 1.6%	0	0	2 1.4%	2 1.0%
回答者計	643 100.1%	285 100.0%	358 99.8%	14 99.9%	41 100.0%	63 100.0%	98 100.0%	83 99.9%	138 99.9%	206 100.2%

- 自分の意思を貫いて結婚する
- 親の説得に全力を傾けた後に、自分の意思を貫いて結婚する
- 家族や親戚の反対があれば、結婚しない
- 絶対に結婚しない
- 分からない
- 無回答

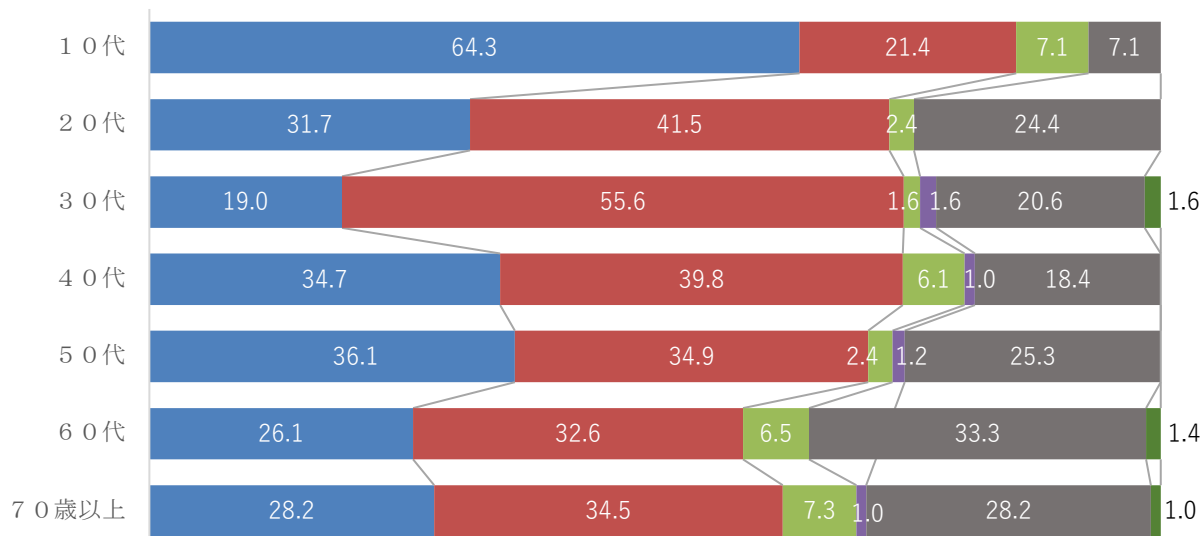
● 前回調査との比較



● 男女比較



● 年代比較



#### 【結果の分析】

- 選択肢の1と2の「結婚する」が67.1%と、前回の63.3%から3.8ポイント増加した。男性の74.3%に対し、女性は61.1%と13.2ポイントの差異がある。
- 年代別では、20代が73.2%、30代が74.6%に対し、60代が58.7%、70歳以上が62.7%と年代が上がるに従って「結婚する」との回答が減少傾向にあるが、「家意識」の違いによるものと思われる。
- 「分からない」が前回とほぼ同様の26.0%と、結婚場面での問題の差別心払拭の困難さがうかがえる。

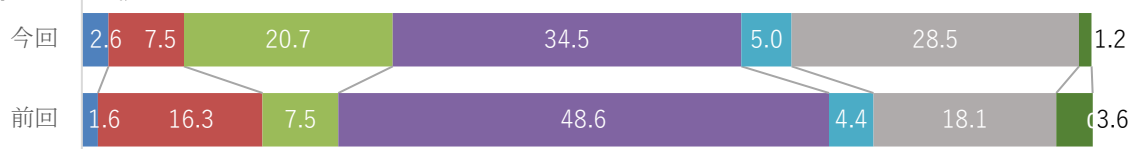
問 29 同和問題をどのように解決すべきだと思いますか。(○は1つだけ)

(上段：回答者数、下段：回答率)

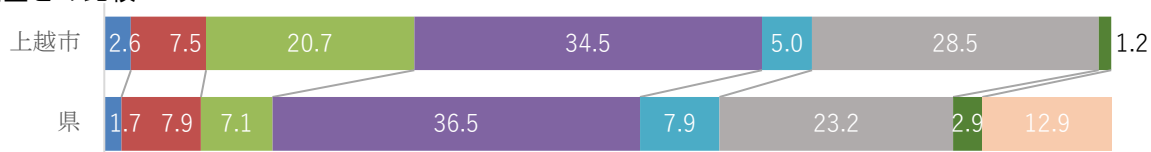
選択肢	全体	男女比較		年代比較						
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1 被差別部落の人の問題だから、被差別部落の人が解決すべき	17 2.6%	8 2.8%	9 2.5%	0	0	2 3.2%	5 5.1%	2 2.4%	2 1.4%	6 2.9%
2 自分ではどうしようもない問題なので、成り行きにまかせ、解決するのを待つ	48 7.5%	17 6.0%	31 8.7%	1 7.1%	4 9.8%	2 3.2%	13 13.3%	5 6.0%	6 4.3%	17 8.3%
3 自分ではどうしようもない問題なので、誰かしかるべき人や機関に解決してもらう	133 20.7%	58 20.4%	75 20.9%	5 35.7%	9 22.0%	15 23.8%	26 26.5%	13 15.7%	30 21.7%	35 17.0%
4 人権にかかわる問題であり、自分も市民として問題解決に努める	222 34.5%	114 40.0%	108 30.2%	7 50.0%	18 43.9%	23 36.5%	28 28.6%	27 32.5%	51 37.0%	68 33.0%
5 その他	32 5.0%	15 5.3%	17 4.7%	0	4 9.8%	6 9.5%	4 4.1%	5 6.0%	4 2.9%	9 4.4%
6 分からない	183 28.5%	71 24.9%	112 31.3%	1 7.1%	6 14.6%	13 20.6%	21 21.4%	30 36.1%	43 31.2%	69 33.5%
無回答	8 1.2%	2 0.7%	6 1.7%	0	0	2 3.2%	1 1.0%	1 1.2%	2 1.4%	2 1.0%
回答者計	643 100.0%	285 100.1%	358 100.0%	14 99.9%	41 100.1%	63 100.0%	98 100.0%	83 99.9%	138 99.9%	206 100.1%

- 被差別部落の人の問題だから、被差別部落の人が解決すべき
- 自分ではどうしようもない問題なので、成り行きにまかせ、解決するのを待つ
- 自分ではどうしようもない問題なので、誰かしかるべき人や機関に解決してもらう
- 人権にかかわる問題であり、自分も市民として問題解決に努める
- その他
- 分からない
- 無回答
- そっとしておけば自然になくなると思う

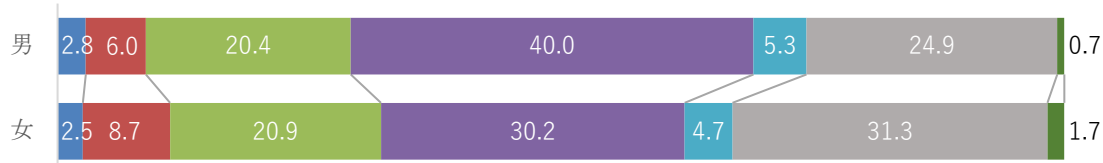
●前回調査との比較



●県調査との比較

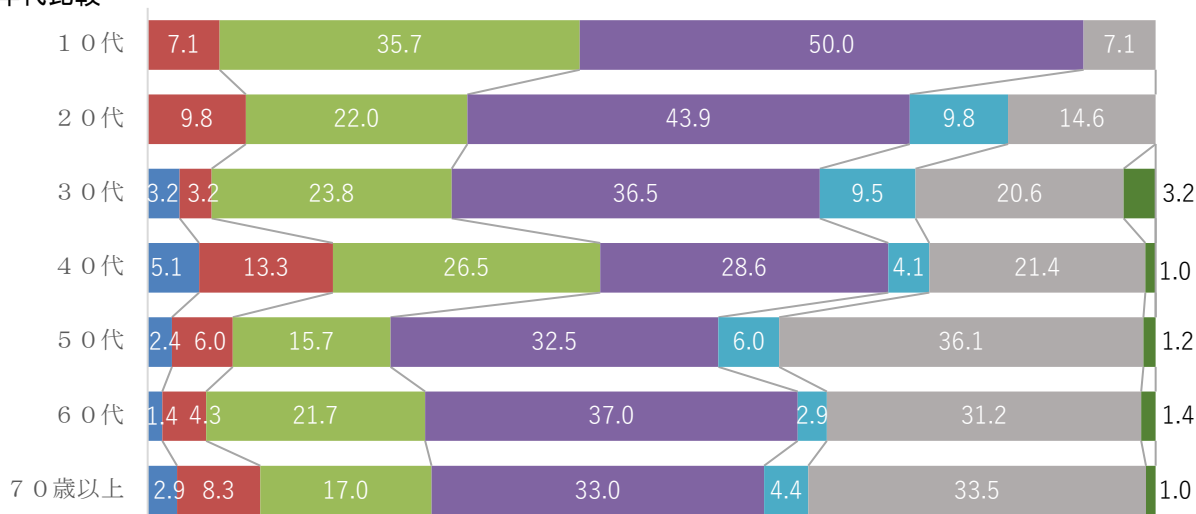


●男女比較



- 被差別部落の人の問題だから、被差別部落の人が解決すべき
- 自分ではどうしようもない問題なので、成り行きにまかせ、解決するのを待つ
- 自分ではどうしようもない問題なので、誰かしかるべき人や機関に解決してもらおう
- 人権にかかわる問題であり、自分も市民として問題解決に努める
- その他
- 分からない
- 無回答
- そっとしておけば自然になくなると思う

### ●年代比較



### ●選択肢「その他」の内容

- ・影響していると感じたことはないので、対策はもう不要だと思う
- ・周りがどうであれ自分はどの人も差別しない
- ・若い世代は全く気にしていない。昨今において解決する必要はない
- ・部落差別と言うものを、世の中が忘れる事が全ての解決になるのでは？誰かがビジネスで同和問題を煽っているのでは？
- ・社会全体が段階を経て理解すべき
- ・当事者がどのようにしてほしいのかを知りたい。当事者の意向に添った支援
- ・解決しない、寄り添っていくのが良い
- ・被差別部落の事を問題にしすぎてこの問題が拡大している
- ・誤解を解くほかない。ただ、宗教の教えがそれぞれあるように、各自の考えがいろいろあるのも事実
- ・問題は既に解決されていると考えている
- ・できる範囲で対応したい
- ・もっとメディアでしっかりと向き合うべき。メディアは怖がって逃げていると思う。
- ・教育、啓発活動
- ・社会・個人が国際的に大人になる

### 【結果の分析】

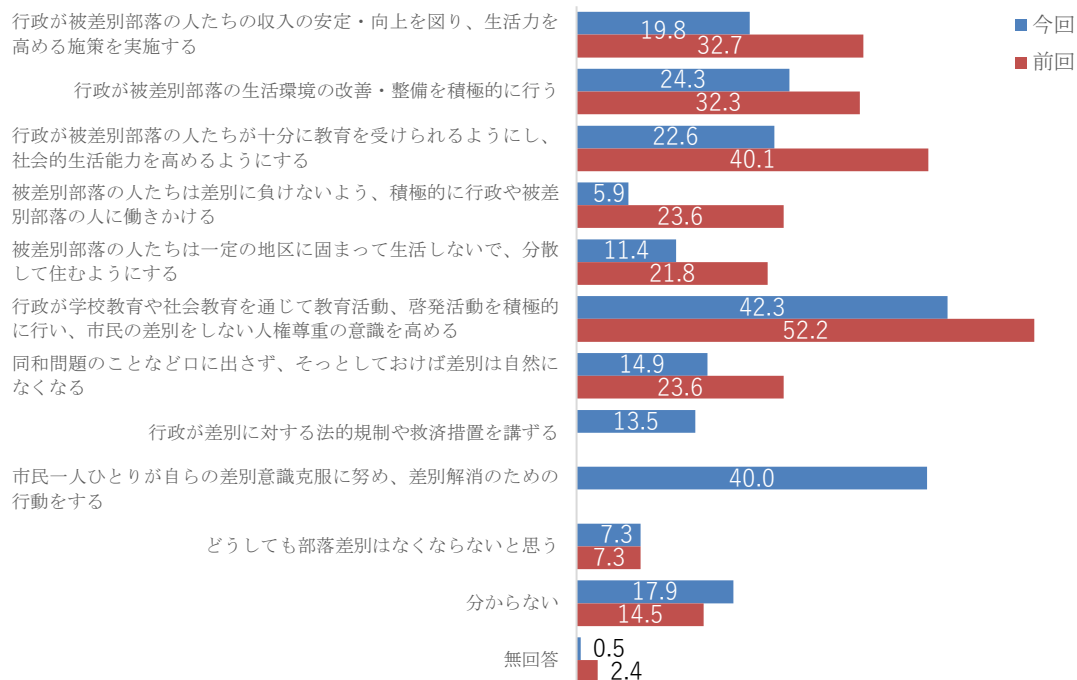
- 「人権にかかわる問題であり、自分も市民として問題解決に努める」が34.5%と、前回の48.6%から14.1ポイントと大きく減少した。一方でこの回答については、年代別では20代が43.9%と高く、学校同和教育の成果と言える。
- 「自分ではどうしようもない問題なので、誰かしかるべき人や機関に解決してもらおう」が前回から13.2ポイント、「分からない」が10.4ポイントそれぞれ増加しており、解決を他者に依存する風潮が感じられる。市民一人ひとりが主体的に差別を解消するまちの形成に向けて、各種施策に取り組む必要がある。
- 「その他」の自由記述意見では、いわゆる「寝た子を起こすな」論が根強くうかがえることから、同和問題に対する市民啓発を工夫する必要がある。

問 30 同和問題を解決するためには、どうしたらよいと思いますか。(〇はいくつでも)

(上段：回答者数、下段：回答率)

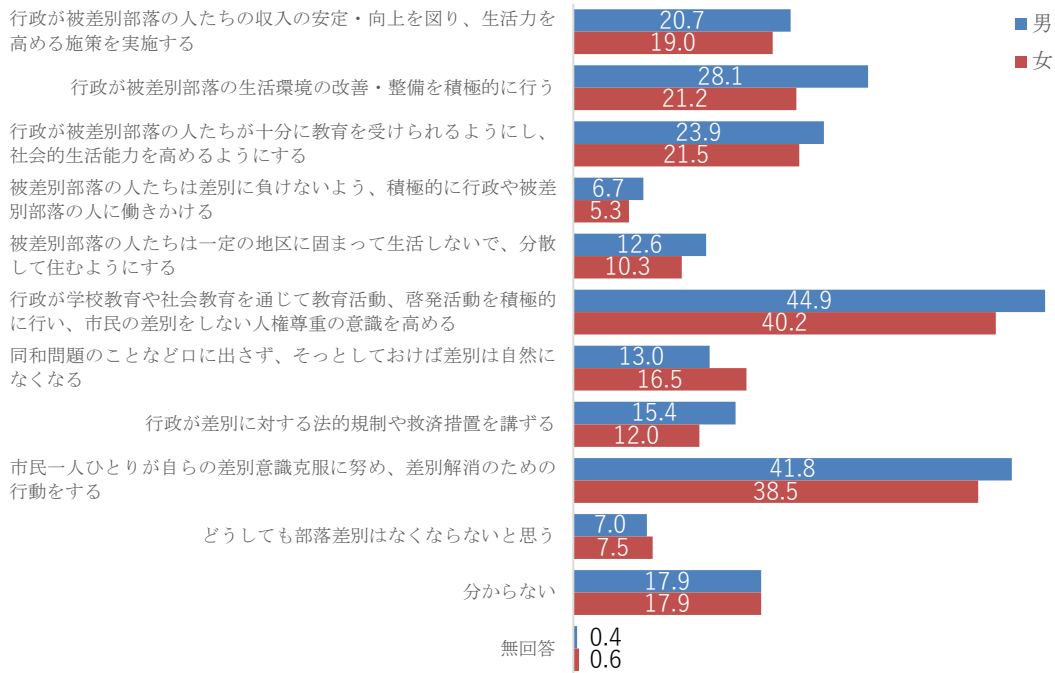
選択肢	全体	男女比較		年代比較							
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	
1 行政が被差別部落の人たちの収入の安定・向上を図り、生活力を高める施策を実施する	127 19.8%	59 20.7%	68 19.0%	0	9 22.0%	19 30.2%	25 25.5%	9 10.8%	30 21.7%	35 17.0%	
2 行政が被差別部落の生活環境の改善・整備を積極的に行う	156 24.3%	80 28.1%	76 21.2%	4 28.6%	10 24.4%	24 38.1%	24 24.5%	19 22.9%	35 25.4%	40 19.4%	
3 行政が被差別部落の人たちが十分に教育を受けられるようにし、社会的な生活能力を高めるようにする	145 22.6%	68 23.9%	77 21.5%	7 50.0%	8 19.5%	17 27.0%	21 21.4%	12 14.5%	31 22.5%	49 23.8%	
4 被差別部落の人たちは差別に負けないよう、積極的に行政や被差別部落の人に働きかける	38 5.9%	19 6.7%	19 5.3%	1 7.1%	2 4.9%	5 7.9%	2 2.0%	5 6.0%	9 6.5%	14 6.8%	
5 被差別部落の人たちは一定の地区に固まって生活しないで、分散して住むようにする	73 11.4%	36 12.6%	37 10.3%	0	3 7.3%	4 6.3%	16 16.3%	10 12.0%	10 7.2%	30 14.6%	
6 行政が学校教育や社会教育を通じて教育活動、啓発活動を積極的に行い、市民の差別をしない人権尊重の意識を高める	272 42.3%	128 44.9%	144 40.2%	10 71.4%	19 46.3%	30 47.6%	44 44.9%	27 32.5%	57 41.3%	85 41.3%	
7 同和問題のことなど口に出さず、そっとしておけば差別は自然になくなる	96 14.9%	37 13.0%	59 16.5%	2 14.3%	5 12.2%	10 15.9%	13 13.3%	12 14.5%	20 14.5%	34 16.5%	
8 行政が差別に対する法的規制や救済措置を講ずる	87 13.5%	44 15.4%	43 12.0%	4 28.6%	9 22.0%	10 15.9%	16 16.3%	10 12.0%	15 10.9%	23 11.2%	
9 市民一人ひとりが自らの差別意識克服に努め、差別解消のための行動をする	257 40.0%	119 41.8%	138 38.5%	6 42.9%	23 56.1%	22 34.9%	42 42.9%	32 38.6%	55 39.9%	77 37.4%	
10 どうしても部落差別はなくならないと思う	47 7.3%	20 7.0%	27 7.5%	0	4 9.8%	7 11.1%	9 9.2%	6 7.2%	9 6.5%	12 5.8%	
11 分からない	115 17.9%	51 17.9%	64 17.9%	1 7.1%	4 9.8%	7 11.1%	16 16.3%	21 25.3%	22 15.9%	44 21.4%	
無回答	3 0.5%	1 0.4%	2 0.6%	0	0	0	0	1 1.2%	1 0.7%	1 0.5%	
回答者計	643	285	358	14	41	63	98	83	138	206	

●前回調査との比較

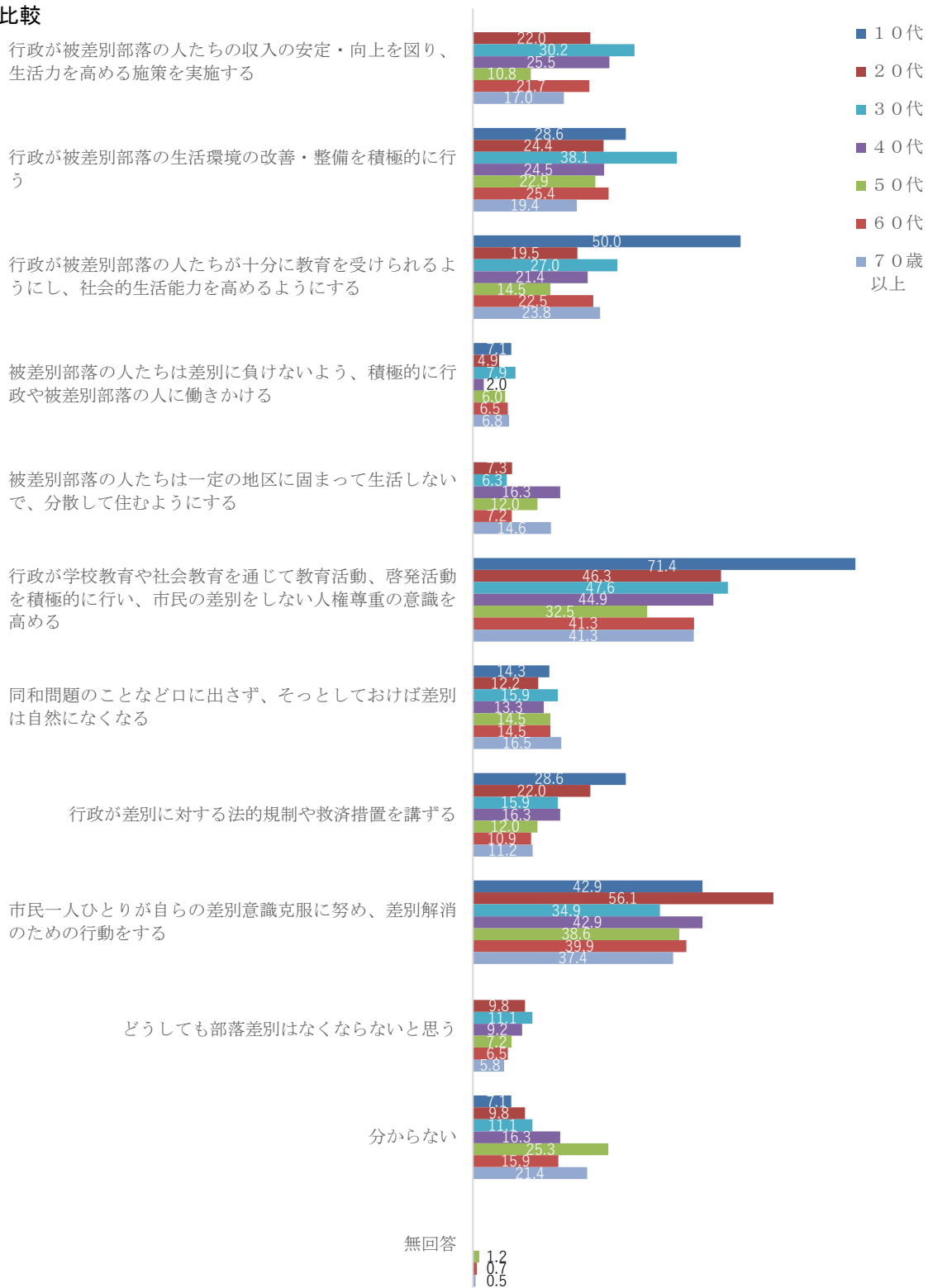




## ●男女比較



## ●年代比較



## 【結果の分析】

- 前回に引き続き、回答で最も高かったのは 42.3%で「行政が学校教育や社会教育を通じて教育活動、啓発活動を積極的に行い、市民の差別をしない人権尊重の意識を高める」となった。このように総じて行政主体の取組が回答の上位となっている。
- 一方で、新たな選択肢である「市民一人ひとりが自らの差別意識克服に努め、差別解消のための行動をする」が 40.0%で上位 2 番目となった。若年層ほど選択する傾向が高いことから、中高年層を対象に差別解消に向けた行動を促す施策に取り組む必要がある。
- 「どうしても部落差別はなくならない」（あきらめ論）は 7.3%と前回と同率であった。

問 31 同和問題についての講演会や研修会に参加したり、新聞や雑誌の関連した記事を読んだりしたことがありますか。1～8のそれぞれについて、何回もある場合は「あ」、1回または2回ある場合は「い」、1回もない場合は「う」に○をつけてください。

### 1 講演会、研修会

(上段：回答者数、下段：回答率)

選択肢	全体	男女比較		年代比較						
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
あ 何回もある	76	39	37	4	6	5	12	13	17	19
	11.8%	13.7%	10.3%	28.6%	14.6%	7.9%	12.2%	15.7%	12.3%	9.2%
い 1回または2回ある	123	62	61	2	13	10	14	17	19	48
	19.1%	21.8%	17.0%	14.3%	31.7%	15.9%	14.3%	20.5%	13.8%	23.3%
う 1回もない	426	175	251	7	22	47	72	52	99	127
	66.3%	61.4%	70.1%	50.0%	53.7%	74.6%	73.5%	62.7%	71.7%	61.7%
無回答	18	9	9	1	0	1	0	1	3	12
	2.8%	3.2%	2.5%	7.1%		1.6%		1.2%	2.2%	5.8%
回答者計	643	285	358	14	41	63	98	83	138	206
	100.0%	100.1%	99.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.1%	100.0%	100.0%

### 2 地域懇談会

(上段：回答者数、下段：回答率)

選択肢	全体	男女比較		年代比較						
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
あ 何回もある	17	12	5	0	1	0	3	5	5	3
	2.6%	4.2%	1.4%		2.4%		3.1%	6.0%	3.6%	1.5%
い 1回または2回ある	53	27	26	1	1	1	5	10	7	28
	8.2%	9.5%	7.3%	7.1%	2.4%	1.6%	5.1%	12.0%	5.1%	13.6%
う 1回もない	544	230	314	12	39	62	88	66	122	155
	84.6%	80.7%	87.7%	85.7%	95.1%	98.4%	89.8%	79.5%	88.4%	75.2%
無回答	29	16	13	1	0	0	2	2	4	20
	4.5%	5.6%	3.6%	7.1%			2.0%	2.4%	2.9%	9.7%
回答者計	643	285	358	14	41	63	98	83	138	206
	99.9%	100.0%	100.0%	99.9%	99.9%	100.0%	100.0%	99.9%	100.0%	100.0%

### 3 広報紙、冊子、パンフレット

(上段：回答者数、下段：回答率)

選択肢	全体	男女比較		年代比較						
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
あ 何回もある	91	53	38	0	3	5	20	13	18	32
	14.2%	18.6%	10.6%		7.3%	7.9%	20.4%	15.7%	13.0%	15.5%
い 1回または2回ある	232	102	130	7	11	13	27	37	69	68
	36.1%	35.8%	36.3%	50.0%	26.8%	20.6%	27.6%	44.6%	50.0%	33.0%
う 1回もない	294	116	178	6	27	45	49	30	47	90
	45.7%	40.7%	49.7%	42.9%	65.9%	71.4%	50.0%	36.1%	34.1%	43.7%
無回答	26	14	12	1	0	0	2	3	4	16
	4.0%	4.9%	3.4%	7.1%			2.0%	3.6%	2.9%	7.8%
回答者計	643	285	358	14	41	63	98	83	138	206
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

#### 4 新聞、雑誌、週刊誌

(上段：回答者数、下段：回答率)

選択肢	全体	男女比較		年代比較						
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
あ 何回もある	99	52	47	0	2	6	18	12	20	41
	15.4%	18.2%	13.1%		4.9%	9.5%	18.4%	14.5%	14.5%	19.9%
い 1回または2回ある	249	122	127	1	15	20	34	32	67	80
	38.7%	42.8%	35.5%	7.1%	36.6%	31.7%	34.7%	38.6%	48.6%	38.8%
う 1回もない	275	101	174	12	24	37	44	36	49	73
	42.8%	35.4%	48.6%	85.7%	58.5%	58.7%	44.9%	43.4%	35.5%	35.4%
無回答	20	10	10	1	0	0	2	3	2	12
	3.1%	3.5%	2.8%	7.1%			2.0%	3.6%	1.4%	5.8%
回答者計	643	285	358	14	41	63	98	83	138	206
	100.0%	99.9%	100.0%	99.9%	100.0%	99.9%	100.0%	100.1%	100.0%	99.9%

#### 5 書籍

(上段：回答者数、下段：回答率)

選択肢	全体	男女比較		年代比較						
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
あ 何回もある	56	38	18	1	1	3	8	9	12	22
	8.7%	13.3%	5.0%	7.1%	2.4%	4.8%	8.2%	10.8%	8.7%	10.7%
い 1回または2回ある	129	58	71	3	9	9	17	13	33	45
	20.1%	20.4%	19.8%	21.4%	22.0%	14.3%	17.3%	15.7%	23.9%	21.8%
う 1回もない	431	176	255	9	31	51	71	57	91	121
	67.0%	61.8%	71.2%	64.3%	75.6%	81.0%	72.4%	68.7%	65.9%	58.7%
無回答	27	13	14	1	0	0	2	4	2	18
	4.2%	4.6%	3.9%	7.1%			2.0%	4.8%	1.4%	8.7%
回答者計	643	285	358	14	41	63	98	83	138	206
	100.0%	100.1%	99.9%	99.9%	100.0%	100.1%	99.9%	100.0%	99.9%	99.9%

#### 6 テレビ番組

(上段：回答者数、下段：回答率)

選択肢	全体	男女比較		年代比較						
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
あ 何回もある	70	40	30	1	2	4	12	8	16	27
	10.9%	14.0%	8.4%	7.1%	4.9%	6.3%	12.2%	9.6%	11.6%	13.1%
い 1回または2回ある	185	89	96	5	5	20	28	26	42	59
	28.8%	31.2%	26.8%	35.7%	12.2%	31.7%	28.6%	31.3%	30.4%	28.6%
う 1回もない	367	146	221	8	34	39	56	47	77	106
	57.1%	51.2%	61.7%	57.1%	82.9%	61.9%	57.1%	56.6%	55.8%	51.5%
無回答	21	10	11	0	0	0	2	2	3	14
	3.3%	3.5%	3.1%				2.0%	2.4%	2.2%	6.8%
回答者計	643	285	358	14	41	63	98	83	138	206
	100.1%	99.9%	100.0%	99.9%	100.0%	99.9%	99.9%	99.9%	100.0%	100.0%

## 7 インターネット記事・動画

(上段：回答者数、下段：回答率)

選択肢	全体	男女比較		年代比較							
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	
あ 何回もある	40 6.2%	25 8.8%	15 4.2%	1 7.1%	3 7.3%	5 7.9%	14 14.3%	6 7.2%	6 4.3%	5 2.4%	
い 1回または2回ある	99 15.4%	53 18.6%	46 12.8%	2 14.3%	13 31.7%	19 30.2%	20 20.4%	9 10.8%	22 15.9%	14 6.8%	
う 1回もない	476 74.0%	193 67.7%	283 79.1%	10 71.4%	25 61.0%	39 61.9%	62 63.3%	66 79.5%	107 77.5%	167 81.1%	
無回答	28 4.4%	14 4.9%	14 3.9%	1 7.1%	0	0	2 2.0%	2 2.4%	3 2.2%	20 9.7%	
回答者計	643 100.0%	285 100.0%	358 100.0%	14 99.9%	41 100.0%	63 100.0%	98 100.0%	83 99.9%	138 99.9%	206 100.0%	

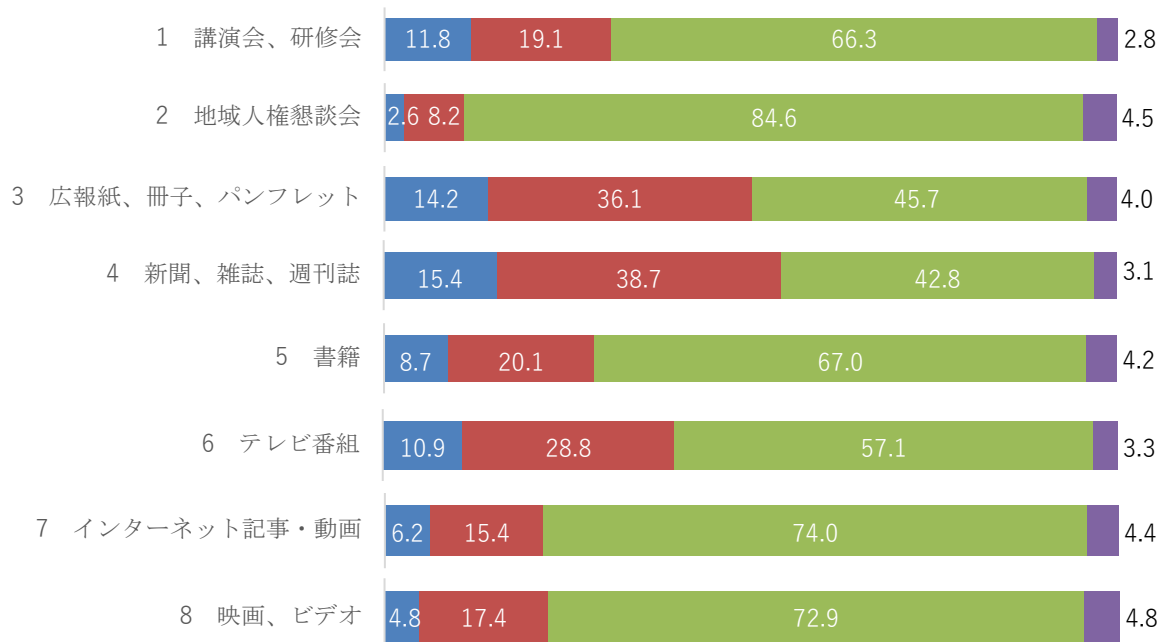
## 8 映画、ビデオ

(上段：回答者数、下段：回答率)

選択肢	全体	男女比較		年代比較							
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	
あ 何回もある	31 4.8%	19 6.7%	12 3.4%	0	0	1 1.6%	5 5.1%	6 7.2%	8 5.8%	11 5.3%	
い 1回または2回ある	112 17.4%	58 20.4%	54 15.1%	6 42.9%	9 22.0%	8 12.7%	18 18.4%	13 15.7%	30 21.7%	28 13.6%	
う 1回もない	469 72.9%	191 67.0%	278 77.7%	7 50.0%	32 78.0%	54 85.7%	73 74.5%	61 73.5%	95 68.8%	147 71.4%	
無回答	31 4.8%	17 6.0%	14 3.9%	1 7.1%	0	0	2 2.0%	3 3.6%	5 3.6%	20 9.7%	
回答者計	643 99.9%	285 100.1%	358 100.1%	14 100.0%	41 100.0%	63 100.0%	98 100.0%	83 100.0%	138 99.9%	206 100.0%	

■何回もある ■1回または2回 ■1回もない ■無回答

### ●今回の調査結果



## 【結果の分析】

- 同和問題に関する体験については、「新聞等」が 54.1%、「広報紙等」が 50.3%と高く、「テレビ番組」が 39.7%、「講演会等」が 30.9%と続いた。一方で、「地域懇談会」が 10.8%と最も低かった。総じて年代が上がるに従って参加経験が低い傾向にある。
- 行政が進める啓発・教育のための「講演会等」への参加経験のない人は 66.3%、特に 30 代～60 代では 7 割程度いることから、講演会等に限られた人の参加による場合が多いことがうかがえる。
- 啓発媒体としては、新聞等と広報紙等による回答率が高いことから、同和問題に対する正しい理解の普及のためには紙媒体を有効活用しながら、正しい情報の伝達方法等を工夫する必要がある。

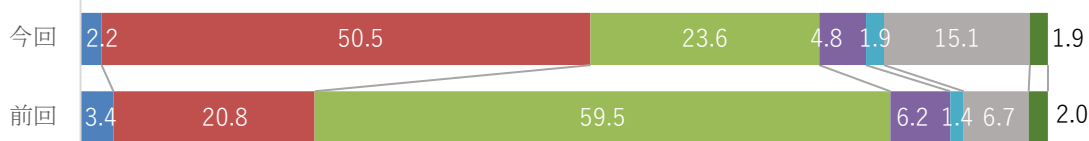
問 32 今後の同和問題の啓発・教育のあり方について、どう思いますか。(○は1つだけ)

(上段：回答者数、下段：回答率)

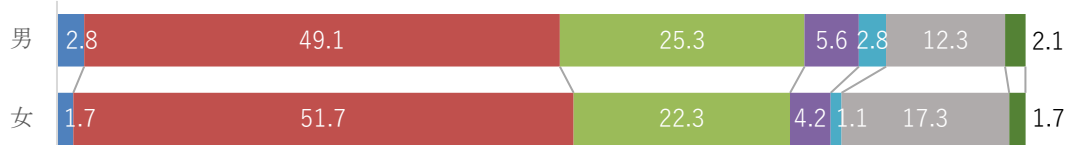
選択肢	全体	男女比較		年代比較						
		男	女	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
1 同和問題は、特に重点的に取り組む	14 2.2%	8 2.8%	6 1.7%	2 14.3%	0	2 3.2%	1 1.0%	1 1.2%	2 1.4%	6 2.9%
2 同和問題だけでなく、他の人権問題も同様に積極的に取り組む	325 50.5%	140 49.1%	185 51.7%	6 42.9%	31 75.6%	38 60.3%	52 53.1%	41 49.4%	60 43.5%	97 47.1%
3 人権問題全体の啓発・教育の一環として同和問題に取り組む	152 23.6%	72 25.3%	80 22.3%	4 28.6%	4 9.8%	14 22.2%	32 32.7%	22 26.5%	36 26.1%	40 19.4%
4 同和問題よりも他の人権問題を重視して取り組む	31 4.8%	16 5.6%	15 4.2%	2 14.3%	1 2.4%	3 4.8%	3 3.1%	2 2.4%	6 4.3%	14 6.8%
5 人権問題の啓発・教育は必要ない	12 1.9%	8 2.8%	4 1.1%	0	1 2.4%	1 1.6%	1 1.0%	4 4.8%	2 1.4%	3 1.5%
6 分からない	97 15.1%	35 12.3%	62 17.3%	0	4 9.8%	5 7.9%	8 8.2%	12 14.5%	29 21.0%	39 18.9%
無回答	12 1.9%	6 2.1%	6 1.7%	0	0	0	1 1.0%	1 1.2%	3 2.2%	7 3.4%
回答者計	643 100.0%	285 100.0%	358 100.0%	14 100.1%	41 100.0%	63 100.0%	98 100.1%	83 100.0%	138 99.9%	206 100.0%

- 同和問題は、特に重点的に取り組む
- 同和問題だけでなく、他の人権問題も同様に積極的に取り組む
- 人権問題全体の啓発・教育の一環として同和問題に取り組む
- 同和問題よりも他の人権問題を重視して取り組む
- 人権問題の啓発・教育は必要ない
- 分からない
- 無回答

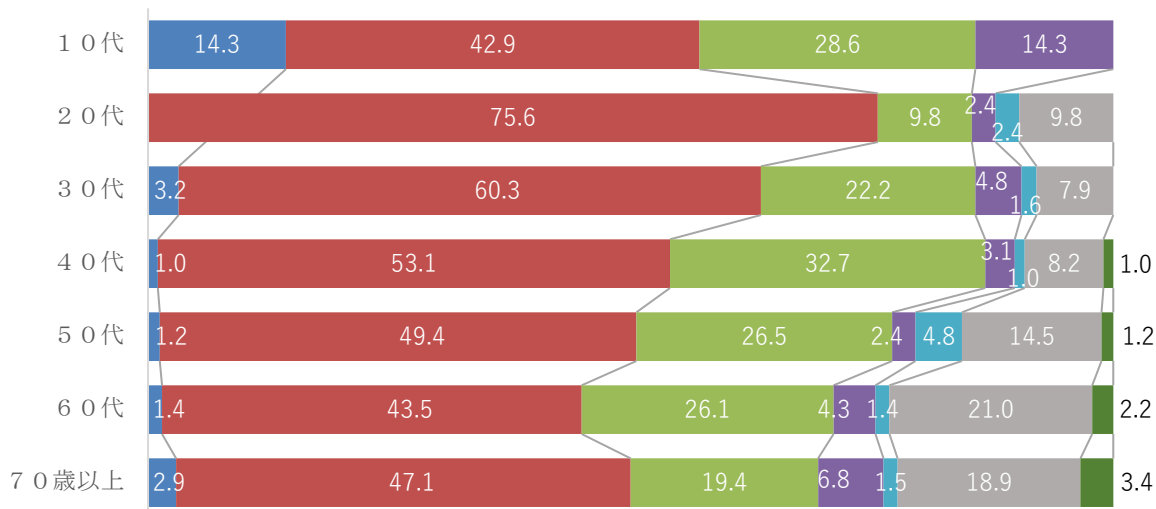
● 前回調査との比較



● 男女比較



● 年代比較



#### 【結果の分析】

- 「同和問題だけでなく、他の人権問題も同様に積極的に取り組む」が 50.5%と前回の 20.8%から大幅に増加した。特に 20 代では 75.6%、30 代では 60.3%と高い数値を示した。一方で、「人権問題全体の啓発・教育の一環として同和問題に取り組む」が 23.6%と前回の 59.5%から大きく減少した。上記 2 つの選択肢に明確な違いがないことから、次回は選択肢の構成を検討したい。
- 同和問題への取組に対して、50 代以上で否定的な回答が高くなっていることから、中高年層向けの同和問題、人権問題の啓発、教育を一層進める必要がある。